

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月13日

【評価実施概要】

事業所番号	891600017		
法人名	有限会社モリ・ケアサービス		
事業所名	グループホームいわまの郷		
所在地	笠間市下郷6004-1 (電話) 0299-45-2433		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年6月26日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(平成19年6月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月28日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤3人, 非常勤8人, 常勤換算2.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6月8日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	2	要介護2	7		
要介護3	1	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83 歳	最低	63 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅谷病院、八郷整形外科病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して1年未満のグループホームであるが、運営者、管理者、職員全員が利用者
に質のよいサービスを提供できるよう、一生懸命尽力している。
利用者は、穏やかでゆったりとした様子で、笑顔で日常生活を送っている。
家族の希望により、利用者の居室に泊まれるよう、畳、寝具等を用意している。
職員は、グループホームの勤務経験を持つ職員を採用しており、声かけは明るく利用
者の笑いを誘うなど、家庭的雰囲気をつくっている。
また、職員間で話し合いや意見交換を行うなど、一人ひとりの経験を生かし、今後の
利用者支援の更なる充実が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回の外部評価であり、該当なし。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 現在も新規利用者があり、利用者も職員も日々の生活支援に取り組む ことに追われ、自己評価を実施するには至っていないので、自己評価や 外部評価の意義を職員全員に周知するとともに、自己評価を職員全員で 取り組み、把握した課題について、改善に向けて取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、民生委員、元教育長、市職員のメンバーで開催しており、協 議内容は行事等の説明を行っているが、地域に対する働きかけが充分ではないの で、委員に町内会長、家族、ボランティア等幅広い立場の人が参加できるよう、 働きかけることを期待する。 また、委員から積極的に意見や支援、協力を得られるよう、会議の持ち方につ いて検討することを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームで相談窓口や担当者を設置し、重要事項説明書に担当者を明示するとと もに、市役所等の外部機関にも相談できるよう、連絡先を明示している。 家族の来所時に意見や要望を聞くなど、積極的に情報交換を行い、意見や要望 をできることから運営に反映しているが、家族会を設立するなど、利用者と家族 及びホームが交流できる機会を設け、利用者の状況報告や意見、要望を話し合う など、信頼関係を構築する取り組みを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会行事の「クリーン作戦(2~3か月に1回実施、空き缶やゴミ 拾い)」に利用者に参加するなど、地域の一員として地域の方々と交流 している。 市の行事や老人会等の行事に利用者の状況を把握しながら参加するな ど、地域との交流を広げる更なる取り組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が精神的に安定して、健康で明るい生活が送れるように支援する」を理念とし、地域と積極的に交流するため行事に参加している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、言葉かけや見守り支援等により、利用者が安心して生活できる家庭的環境づくりに努めている。 また、地域の行事に積極的に参加するなど、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事の「クリーン作戦（2～3か月に1回実施、空き缶やゴミ拾い）」に利用者と参加するなど、地域の一員として地域の方々と交流している。	○	市の行事や老人会等の行事に利用者の状況を把握しながら参加するなど、地域との交流を広げる更なる取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して1年を経過していないため、外部評価は初めての受審である。 現在も新規利用者があり、利用者も職員も日々の生活支援に取り組むことに追われ、自己評価を実施するには至っていない。	○	自己評価や外部評価の意義を職員全員に周知するとともに、自己評価を職員全員で取り組み、把握した課題について改善に向けて取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、元教育長、市職員のメンバーで開催しており、協議内容は行事等の説明を行っているが、地域に対する働きかけが十分ではない。	○	運営推進会議の委員に、町内会長、家族、ボランティア等幅広い立場の人が参加できるよう、働きかけることを期待する。 また、委員から積極的に意見や支援、協力を得られるよう、会議の持ち方について検討することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と積極的に交流するまでには至っていない。	○	管理者は、市関係職員とグループホームとの交流を図る等、市に協力を働きかけるとともに、課題の解決やサービスの向上に向けて積極的に連携を図ることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームたよりを発行し、家族に送付するとともに、利用者の状況や金銭の受払い状況を毎月報告している。	○	金銭管理は、利用者毎に管理ができるよう、検討するとともに、家族が確認したときは、認印を押印してもらうなど、トラブルを防ぐ取り組みを提案する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームで相談窓口や担当者を設置し、重要事項説明書に担当者を明示するとともに、市役所等の外部機関にも相談できるよう、連絡先を明示している。 家族の来所時に意見や要望を聞くなど、積極的に情報交換を行い、意見や要望をできることから運営に反映している。	○	家族会を設立するなど、利用者と家族及びホームが交流できる機会を設け、利用者の状況報告や意見、要望を話し合うなど、信頼関係を構築する取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームは1ユニットで運営しているため、異動はなく、職員の採用も経験者を採用するなど、利用者が馴染みの職員から支援を受けられるよう、配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修を受講できるよう、計画をたてているが、利用者支援に忙殺され、外部研修を受講する機会が少ない。	○	職員一人ひとりの段階に応じた研修が受講できるよう、計画や受講を促すとともに、研修終了後に情報を共有する体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や関係機関から得た情報や意見交換の内容を、職員に報告している。 職員はグループホームの勤務経験者が多く、相互の経験を情報交換しながら、サービスの向上に努めている。	○	同業者同志のネットワークに参加・交流することにより、サービスの質の向上につなげることを提案する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者が、ホームの環境に慣れるよう、体験入居できる機会を設けるなど、納得してから利用できる配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の喜びや楽しみを共感するとともに、利用者一人ひとりの性格や気持ちを汲み取り、利用者支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の家族歴などの背景を念頭に、ホームでの生活や意向について、本人から意見を聞いたり、言葉や表情等から推察するなど、利用者本位のサービスに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で利用者一人ひとりのカンファレンスを行うとともに、介護計画を検討し、本人や家族に説明し、理解を得たうえで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況や状態に応じて、臨機応変に介護計画を見直しするとともに、本人や家族に説明し、理解を得たうえで新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、通院や送迎支援に取り組むとともに、家族が宿泊を希望する時は寝具を用意するなど希望に応じた支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に本人や家族の同意を得て協力医に受診し、協力医の指示を本人や家族に伝え情報を共有するとともに、改善に向けて支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は利用者が重度化した場合や終末期の対応について理解をしているが、家族や職員等と方針の共有やマニュアルを作成するまでには至っていない。	○	本人や家族、協力医や職員全員が方針を共有するとともに、重度化した場合の対応や終末期における対応マニュアルを作成することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者のプライバシーやプライドを傷付けないよう、さりげない誘導や声かけ、見守り等の対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や思いに配慮するとともに、趣味や買い物、散歩等の本人の希望に沿った支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事をしており、楽しく会話をしながら、食事をしている。 また、利用者の力量に応じて、片付けなどを手伝ってもらえるよう、声かけや場面づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認し、入浴を楽しめるよう、支援している。 また、廊下の一角に足浴ができるよう、設備を設置している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や特技を把握するとともに、生け花や植木の手入れ、野菜づくり等、利用者の得意なことや役割、楽しみごとを活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、利用者が自由にデッキテラスで、外気浴をしている。 また、ホームは静かな田園地帯に位置しており、散歩を日課とした外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員による見守りを徹底することにより、居室、玄関等の出入り口を鍵をかけず、利用者が自由に暮らせるよう、支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は消防署の協力を得て実施しているが、マニュアルの作成や地域へ働きかけまでには至っていない。	○	災害発生時に、スムーズに避難ができるよう、災害マニュアルの作成や地域の方々、関係機関に協力を得られるよう、働きかけることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立により、栄養バランスやカロリーに配慮した食事を作っている。また、利用者の状況に応じた粥食や刻み食をメニューに入れ、摂取量も記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造のデッキテラスは広く、洗濯干し場も使いやすいよう、配慮している。 室内は明るく、生活感や季節感を取り入れるため、和室にテーブルの設置や花を活けるなど、居心地良く過ごせるよう、工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや馴染みの物を自宅から持ち込み、居室に飾っている。 また、家族が宿泊できるよう、畳や寝具等を準備している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。